

農林水産大臣賞受賞

～若者の目もキラキラ 世代を超えて自発的に取り組むむらづくり～

受賞者 ^{たかね} 高根フロンティアクラブ

(新潟県^{むらかみし}村上市)

■ 地域の沿革と概要

^{むらかみし}村上市は、新潟県の最北部、山形県との県境に位置し、平成20年4月、旧村上市、^{いわふねぐんあらかわまち}旧岩船郡荒川町・^{かみはやしむら}神林村・^{あさひむら}朝日村及び^{さんぼくまち}山北町の1市2町2村が新設合併により村上市として誕生した。

村上市の市街地は県内最古の城下町として知られ、城下町の四大要素（城跡・武家屋敷・町屋・寺町）が残る全国的にも希少な町並みを形成している。また、世界で初めて鮭の自然ふ化増殖に成功したことで有名であり、鮭の漁獲時期には軒下に鮭をぶら下げる独特の鮭文化が根付いている。北部の海岸は、「笹川流れ」と呼ばれ国の名勝天然記念物（県立自然公園）に指定されており、見事な景観を誇る延長11キロメートルに及ぶ美しい海岸線が見られる。北限の茶処として有名な「村上茶」は、独特のまろやかさで、高級茶として親しまれている。

第1図 位置図



■ むらづくりの概要

1. 地区の特色

高根地区は、旧朝日村の東北端にあり、村上市の中心部から北東方向に約20km、朝日連峰を源流とする^{たかねがわ}高根川の最上流域に位置し、四方を山に囲まれた自然豊かな地域で、例年1.5m～2mの積雪がある。高根川の支流、^{すずたに}鈴ヶ滝にある^{すずがたき}鈴ヶ滝は、落差55m、幅10mの滝で「日本の滝百選」にも選ばれた名瀑であり、滝及び周辺のブナ天然林は昭和54年に全域が鈴ヶ滝自然環境保全地

第1表 地区の概要

事項	内容
地区の規模	集落
地区の性格	地縁的な集団等
農家率 (内訳)	38.0%
	総世帯数 171戸
	総農家数 65戸
専業別農家数 (内訳)	専業農家 1戸
	1種兼業農家 6戸
	2種兼業農家 36戸
農用地の状況 (内訳)	総土地面積 9,850ha
	耕地面積 80ha
	田 70ha
	畑 6ha
	耕地率 0.8%
	農家一戸当たり耕地面積 1.2ha

注：平成27年時点の旧朝日村高根集落の範囲

域特別地区に指定されている。また、地区の北にある独立峰、天蓋山（標高634m）は新潟 100 名山の一つであり、低山ではあるが山頂からの眺望が良く、「天蓋の鬼ばばあ」伝説が残る山でもある。

本地区の総土地面積は 9,850ha で、うち水田は 70ha、森林が約 85%を占めており、ほぼ全戸が組合員となる高根生産森林組合をはじめ、高根山業会及び高根植林会の三つの森林組織が存在する。棚田のかんがい用水は、高根川支流の溪流を水源としており、環境の保全と林業の共生を図る水源林造成事業など森林に対する様々な事業に取り組んでいる。また、棚田の畦畔の草刈りを高根山業会の作業員が行うなど、農業と林業が深いつながりを持ち、積極的な森づくりの活動が行われている。

戸数は 171 戸、人口 470 人あまりが暮らし、主要な産業としては、以前は農林業であったが、現在は市街地周辺で働く人が増えている。農業の主な品目は水稲でコシヒカリなどの棚田米や条件不利地等でそばなどが栽培され、小規模の家族経営が多い。林業では、スギの素材生産のほか、林間わさびなどの特産物の生産も行われている。



写真 1 高根地区の全景

2. むらづくりの基本的特徴

(1) むらづくりの動機、背景

ア むらづくりを推進するに至った動機、背景

高根地区では平成 7 年当時、高齢化と人口減少が進み、小学校の廃校、農業後継者の減少など、地区の活力が低下し、今後の存続が危ぶまれる状況となっていた。このままでは生まれ育った集落がなくなると危機感を持った有志により、自分たちの手で地域の自然を守り、自ら地域を変えていこうと、平成 8 年、「高根フロンティアクラブ」を結成した。

イ むらづくりについての合意形成の過程とその内容

クラブ設立後は、組織づくりの勉強、優良事例地区の視察などを重ね、平成 9 年には初めての取組として、遊休地にひまわりを植え「ひまわりフェスティバル」（現在は天蓋高原夏まつり）を開催した。この取組が好評だったことから、毎年開催することになり、今ではクラブを象



写真 2 天蓋高原夏まつり

徴するイベントになっている。

平成 12 年、地域住民を含めたワークショップ等を積み重ねながら、地区の資源データの収集や地区の未来デザインづくりに取り組み、クラブの取組の柱となる「高根元気づくり計画」を作成、この計画には、①観光農園づくり、②廃校利用、③特産品づくり、④高根らしいイベントづくり、⑤森の里づくりの 5 つの取組を位置づけ、各種活動を展開した。

ウ 現在に至るまでの経過

平成 27 年には、これまでの取組を振り返るとともに、ワークショップ等を通じて「高根元気づくり計画」の内容を見直し、①新しい寄り合いづくり、②暮らし体験ビレッジ計画、③交易増進プロジェクトを活動方針とする「たかねみらいづくりビジョン」を新たに作成し、現在はこのビジョンに沿った活動を展開している。

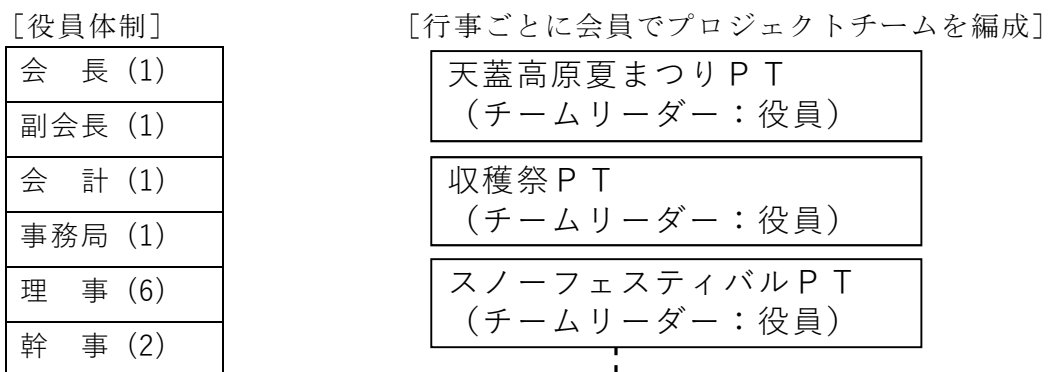
これまで作成・改訂した計画やビジョンは、前述のとおりワークショップ等により広く地域住民の意見を取り入れており、地区から認知されたものとなっているため、地域住民の多くが活動に参加している。

(2) むらづくりの推進体制

ア 高根フロンティアクラブの組織体制、構成員の状況

高根フロンティアクラブは、20～60 歳代の地区の有志 43 名で構成されており、12 名の役員で事業の企画・立案を行い、行事毎にプロジェクトチームを編成し活動している。

第 1 図 高根フロンティアクラブ組織図



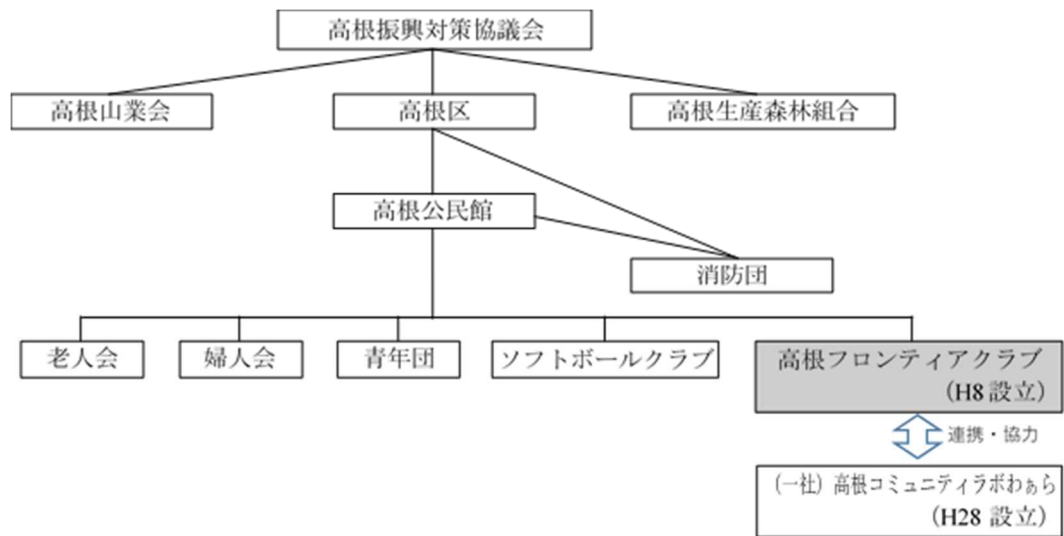
イ 連携する他の組織、団体の概要

高根区は地区全戸が加入する自治組織であり、全戸からの区費や森林組合等からの協力金等を原資に高根振興対策協議会が各種活動組織に対して助成を行っている。

高根フロンティアクラブの活動は、内容によって地区内の他組織と連携・合同で事業を実施しているほか、地域外の N P O、大学、企業等と

も連携して地域活性化に取り組んでいる。

第2図 高根集落組織図



- ・村上市朝日支所：高根地区まちづくり協議会事務局、イベント開催協力
- ・NPO法人^{つきささら}都岐沙羅パートナーズセンター：イベント開催協力等
- ・NPO法人共存の森ネットワーク：学生主体の森づくり、棚田保全活動への協力
- ・大洋酒造（株）：CSV活動としてイベント開催協力
- ・TOTO（株）：CSR活動として森づくりへの協力
- ・新潟大学：フィールドワークの場、イベント手伝い

■ むらづくりの特色と優秀性

1. むらづくりの性格

高根フロンティアクラブは、集落を取り巻く環境が変化し、課題も変わるなか、ワークショップ等を通じてしっかりと地域の課題を整理し、10年後を見据えた「たかね みらいづくりビジョン」を活動方針として決定し、43名の会員が中心となり、情報発信及び交流促進事業を地区内他組織と連携・合同で実施している。また、地域外の各種団体等とも連携した地域活性化のむらづくりが行われている。

現在、地区の活性化に関わる活動は、高根フロンティアクラブが中心となって取り組んでおり、その活動が刺激となり平成28年には、40歳代以下の若手が「(一社)高根コミュニティラボわあら」を立ち上げ、若者の視点による新たなむらづくり活動が展開されている。

「たかねみらいづくりビジョン」

① 新しい寄り合いづくり

⇒ 空き家を活用した年代を問わず気軽に集まれる場の提供

② 暮らし体験ビレッジ計画

⇒ 都会の人の受け入れ施設整備、山里の暮らし体験の企画・実施

③ 交易増進プロジェクト

⇒ 高根の逸品を販売する仕組みづくり



写真3 たかねみらいづくり
ビジョン

2. 農業生産面における特徴

(1) 農林漁業生産、流通面の取組状況

廃校舎を改装して、平成15年に農家レストラン「山のおいしさ学校食堂 I R O R I (いろり)」を開業し、地元農産物や山菜を活かしたそば定食などの提供の他、地元農産物の販売を行っており、年間約400万円の売上有り。農家レストランで提供する手打ちそばは、全て地元産のそば粉でまかなえるまでになるなど、条件不利地でのそば栽培を拡大し、遊休農地の発生防止に寄与している。

また、地元産コシヒカリを原料としたどぶろくの商品化や山葡萄ゼリーをレストランのメニューとして提供するなど6次産業化にも取り組んでいる。

さらに、天蓋山と東京スカイツリーが634mということから参加した「634 (ムサシ) サミット」が縁で墨田区との交流が始まり、平成27年から毎年、墨田区商店街の協力により「高根物産展」を開催するなど、さまざまなチャンネルを活用し、地域の特産品である棚田米の販売拡大に取り組んでいる。



写真4 食堂 I R O R I



写真5 そば定食

(2) 活動による構成員等の経営改善、後継者の育成

高根フロンティアクラブには、若い世代が加入し始めるなど徐々に世代交代が進んでいるほか、クラブの活動が刺激となり、平成 28 年に新たに設立された「(一社)高根コミュニティラボわあら」では、40 歳代以下の若手が活躍し、約 1,300 枚ある高根の棚田の耕作状況調査と 10 年後に耕作されているかどうかの予測を聞き取り、棚田での米づくりを継続するための課題や対策を検討している。さらに、高根棚田米の販売や稲作サポートを組み合わせた会員制度「準村民制度」を目指し活動している。



写真 6 棚田の耕作状況調査

また、クラブが受け入れてきた企業 CSR や大学フィールドワークがきっかけとなって、他地域から 5 人が移住し、うち 2 名が農林業の担い手として定住している。

3. 生活・環境整備面における特徴

(1) 地域資源を活かしたイベントの定期開催

「高根らしいイベント」として、天蓋高原の遊休地を活用し、旧朝日村の花「ひまわり」を題材とした夏まつりを開催し約 800 名の来場者があるほか、平成 17 年からは地酒、どぶろくの雪中貯蔵・蔵出しイベントなど、新たな交流人口の拡大に努めている。

第 2 表 主なイベント等の交流人口（平成 30 年度）

主なイベント	特徴など	交流人口
田植体験、稲刈体験、ブナの植林	首都圏 NPO 法人を主体としてブナの植林活動、田植・稲刈体験、棚田の保全活動などを実施。学生のフィールドワークや企業 CSR のきっかけにもなり、10 年以上継続している活動	のべ 100 人
天蓋高原夏まつり	企業、NPO、大学生、地元の子供などがひまわりの種まきから参加。夏まつりは多くの来訪者で賑わう一大イベント	700～800 人
新そばと秋の味覚の収穫祭	約 20 年続いている大イベントでリピーターが多い。	150～200 人
雪中貯蔵・蔵出しイベント	野菜や地酒、どぶろくなどを冬に貯蔵し、春に蔵出しを行うイベント。さいの神や高根の味も楽しむ	約 60 人

スノーフェスティバル	雪に親しむための市内子供向けイベント	約 200 人
ピザづくり、そば打ちなど体験受入	主に市内の子供会や P T A の行事として受入	年間 200～300 人
企業 C S R 活動の受入	現在は 1 社を受入し「ドングリの森づくり」を実施	のべ約 100 人
学生などの調査、体験受入	地域づくりや林業などをテーマとした大学のフィールドワーク、複数大学の共同研究の場として受入	のべ約 100 人

(2) 森の里づくり等による環境保全活動

平成 19 年から、里山の維持のため、首都圏の N P O 法人と植栽活動「ブナ林・ドングリの森づくり」を開始するとともに、同年にビオトープを完成させ、子どもの自然教育の場として活用している。

この取組は当該 N P O 法人の他、大手企業の C S R 活動としても取り組まれるようになるなど活動が横展開されてきている。

また、首都圏の N P O 法人会員の大学生や企業の社員・家族が定期的に訪れ、森づくりや棚田の管理などに協力しており、里山・景観の維持が図られている。近年は大学等のフィールドワークの受入にも協力しており、このことは、里山の維持のほか、交流人口の増加等に寄与している。

(3) 集落の伝統行事の 30 年ぶり復活

平成 26 年 3 月に、N P O 法人の活動を通じて本地区に移住した若いカップルの結婚式が、30 年ぶりの伝統「^{たんすおく}箆筒送り」として行われた。これは外からの移住者でも地区でしっかり見守っていこうという“高根の人の心・思い”を象徴する出来事であり、この伝統行事の復活には、道具の収集から唄の稽古まで準備段階から地区住民が一致団結したことにより、昔の様子を再現することができ、当日は約 500 人がお祝いに駆けつけた。



写真 7 伝統の結婚式



写真 8 箆筒送り

(4) 空き家リノベーション活動

平成28年には、「(一社)高根コミュニティラボわあら」と高根フロンティアクラブが連携して、地区の空き家の現状調査や活用方法の検討を開始し、翌年、空き家となっていた昭和3年(1928年)建築の古民家を手作りリノベーションにより、短期滞在者向けのゲストハウス「瑞泉閣^{ずいせんかく}」として整備した。当施設は、地域内外の交流拠点としても活用し、子供の勉強・遊びの場づくりや高齢者の介護予防としてのお茶飲み場づくり、地区住民向けの勉強会などにも取り組んでいる。

また、空き家を活用したシェアハウスを整備し、移住志向者・農業参入志向者等のお試し移住の場として活用するなど多様なニーズにも対応している。



写真9 ゲストハウス「瑞泉閣」

第3表 むらづくりに関する年表

時期	内容
平成8年	「高根フロンティアクラブ」設立、集落勉強会開始
平成9年	ひまわり畑造成 ひまわりフェスティバル(現:天蓋高原夏まつり)の開催
平成11年	高根元気づくりワークショップの開催
平成12年	「高根元気づくり計画」の作成 新そばと秋の味覚の収穫祭の開催
平成15年	農家レストラン「I R O R I (いろり)」の開業 体験の受入開始
平成17年	どぶろく「雲上(くものうえ)」の販売 雪中貯蔵 蔵出しイベントの開催
平成19年	首都圏NPO法人との「ブナ林・ドングリの森づくり」開始、ビオトープ完成
平成20年	大手企業のCSR活動への協力開始
平成22年	新たな大手企業のCSR活動の受入
平成27年	東京都墨田区での「高根物産展 山里の収穫祭」の開催 「たかねみらいづくりビジョン」の作成
平成28年	若手グループ「(一社)高根コミュニティラボわあら」結成
平成29年	「(一社)高根コミュニティラボわあら」による空き家を活用したシェアハウス、ゲストハウスの整備